

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
2019年度通常総会議案書

期 日 2019年5月26日（日） 15時40分開会

会 場 駅前オフィス貸会議室 7階 大会議室

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓紹介
4. 資格審査報告
5. 議長選出
6. 議長挨拶
7. 総会役員選出
 - 1) 書記任命
 - 2) 議事録署名人任命
8. 表彰
9. 議事
 - 1) 第1号議案 平成30年度事業報告について
 - 2) 第2号議案 平成30年度収支決算書について
 - 3) 第3号議案 平成30年度監査報告について
 - 4) 第4号議案 支部提出議案について
 - 5) 第5号議案 日臨技定期総会提出議案について
 - 6) 第6号議案 次年度役員選出について
 - 7) その他
10. 2019年度事業計画および収支予算について（報告）
11. 総会役員解任
12. 議長挨拶
13. 閉会の辞

平成30年度事業報告

会長

渡邊 博昭

平成30年度もこれまでの会務を遂行するとともに、10月28日に朱鷺メッセで開催いたしました第92回新潟県臨床検査学会では331名の方々に参加いただき、盛会裏のうちに無事終了いたしました。これもひとえに、会員の皆様からの応援と、ご協力のおかげと実務委員一同、感謝いたします。

本年度も理事が丸丸となって努力して参りましたが、至らぬ点がありご迷惑をお掛けしたと思います。しながら無事に会務を遂行できたことは会員の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

平成30年度の事業の概要を下記の通り報告する。

総務部

- ① 平成26年度から一般社団法人に移行したため、定款の確認および各種規定および手順書の見直しを行った。
- ② 表彰関係は昨年度通りの事業を行った。

学術部

- ① 第92回新潟県臨床検査学会を開催した。
- ② 精度管理事業は、日臨技のシステムを使用して事業を行った。
- ③ 検査研究部門活動は活発に開催され、日臨技助成金に対して17研修会の申請を行った。

広報部

- ① 会誌、ニュース、ホームページがそれぞれの役割を明確にして事業を行った。特にホームページは迅速な対応を行った。

1. 通常総会の開催

平成30年5月27日（日）新潟ユニゾンプラザにおいて平成30年度通常総会を開催し、平成29年度事業報告、同決算報告、監査報告の説明があり承認された。また、平成30年度事業計画（案）、収支予算（案）を報告した。

2. 会務の執行体制

1) 職務分担

平成30年度は役員任期の後期にあたったが、前期同様に学術部、広報部、総務部の3部門に理事を配置し、各部門との連携を図りながら会務を執行した。

2) 事務局体制

事務局業務が非常に多くなっている現状で、阿部事務員の努力により諸会議の準備や日臨技・北日本支部および会員との連絡・調整役を担い、又、JAMTIS運用による会員情報登録および変更作業を迅速に処理し、組織運営上、大変重要な役割を果たしている。

3. 諸会議の開催

1) 理事会 第1回 平成30年4月21日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

第2回 平成30年5月19日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

第3回 平成30年7月21日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

第4回 平成30年9月22日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

第5回 平成30年10月20日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

第6回 平成31年1月12日（ブラーカ KENTO RoomB）

第7回 平成31年3月10日（新潟県公社総合ビル3F会議室）

2) 常任理事会

定例常任理事会は、平成30年度は4回の開催となった。

3) 三役会議

急な協議事項等についてはメール等を利用し協議を行い、特に三役会議は開催しなかった。

4) 各種委員会の開催

(1) 会誌編集委員会

新臨技会誌（季刊発行）第307号から第310号の編集業務のため、4回開催した。

(2) ホームページ委員会

会員への情報伝達手段としてホームページの充実と運用に努めた。

(3) 検査研究部門委員会

各検査研究分野の活動計画並びに運営等を協議するため1回開催した。

(4) 生涯教育研修委員会

理事会や各支部生涯教育委員と連絡をとりながら研修会予定および参加者の登録を行った。

(5) 精度管理委員会

精度管理調査の事業計画、集計処理状況把握、検討会企画の協議のため6回開催した。

(6) 表彰委員会

各種表彰の対象者選考のため、1回開催した。

4. 組織対策

1) 入会対策

会員数の多い年代が定年を迎え会員数の減少が懸念されるが、各支部役員および各施設連絡責任者の協力により入会を勧めた。

本年度の新入会および再入会の会員数は89名。

本会の正会員総数は1,372名。(平成31年3月現在)

技師連盟入会者数は16名。(平成31年3月現在)

社会的地位向上および今後の業務拡大の為に、更に多くの会員の入会をお願いする必要がある。

2) 各支部との連携強化

各支部ともその地域性を生かした独自の活動が浸透し、年々活発化している。支部総会等に役員を派遣し、連携強化を図った。

5. 地域保健医療活動および公益事業

- 1) 新潟県臓器移植財団へ賛助会員として参画
- 2) 父の日企画「家族で守ろうパパの健康」へ中越支部が共催団体として参画(6月3日)
- 3) 佐渡糖尿病ウォークラリー2018に共催団体として参画(6月10日)
- 4) 糖尿病を知る集いへ中越支部が共催団体として参画(7月21日)
- 5) すこやかともしびまつりへ中越支部が共催団体として参画(9月29・30日)
- 6) ピンクリボンホリデー2018へ参画(10月21日)
- 7) 無料HbA1c測定会を実施(10月27日)
- 8) 世界糖尿病デーin長岡2018へ中越支部が参画(11月3日)
- 9) HbA1c測定会(11月10日)
- 10) 糖尿病を知る集いへ佐渡支部が血糖測定で協力(11月10日)
- 11) 糖尿病を知る集いへ血糖測定で協力(11月11日)
- 12) 新潟市民を対象とした全国「検査と健康展」を開催(11月23日)

6. 求人情報

日臨技への情報登録とともに、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供した。

7. 災害関係

災害支援活動や会員の安否確認に威力を発揮する災害支援ネットワークに賛同と登録をお願いした。登録者は90名(平成31年3月現在)となった。

8. 表彰関係(敬称略)

- 1) 第36回篠川至賞(篠川至賞選考委員会を経て平成30年5月27日通常総会にて表彰)

功 勞 部 門 松 田 和 博(新潟支部)

学 術 部 門 菅 原 芳 秋(新潟支部)

- 2) 平成30年度功労者表彰(平成30年5月27日通常総会にて表彰)

(1) 永年会員功労者表彰 該当者44名

(2) 特別功労者表彰 桑 原 喜久男(済生会三条病院)

- 3) 平成30年度生涯教育履修表彰(平成30年5月27日通常総会にて表彰)

奨 励 賞 林 真 也(新潟県立がんセンター新潟病院) 440点

小 野 篤 史(済生会新潟第二病院) 410点

石 塚 浩 章(独立行政法人国立病院さいがた医療センター) 400点

新 人 賞 野 中 拓(長岡赤十字病院) 340点

- 4) 第92回新潟県臨床検査学会テーマ賞(平成30年10月28日学会開会式にて表彰)

近 藤 善 仁(あがの市民病院)

平成30年度は新潟県臨床検査学会、検査研究部門活動、精度管理事業、生涯教育を中心に1年間活動を行った。県学会や講習会を通して臨床検査技師の未来像を考える事業にも取り組んだ。

1. 学会

桑原 喜久男

平成30年10月28日(日)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて、第92回新潟県臨床検査学会を開催した。学会テーマは、「ゲンバビト～私たちの Working Revolution!～」として、一般演題33演題(内学生2演題)、特別企画2、パネルディスカッション1、教育講演5、ランチョンセミナー6が行われ、会員258名、賛助会員35名、学生29名、非会員9名、合計331名の参加をいただいた。学会テーマに沿い、時代の要請、ニーズに合った臨床検査技師へ変化を求められている事を認識し、これから各位が目指す臨床検査のスペシャリスト像が伺える学会となれば大変うれしいうれしい限りであった。会員各位のご協力のおかげで一般演題数も第91回と変わらず、33演題いただき、本学会が一般演題デビューとなった会員もおられた事は大変うれしいうれしい限りです。また、賛助会員様より、予定を上回るランチョンセミナー、機器展示の申し込みがあり、活気に満ちた学会となった。これも会員各位から積極的に学会発表、参加を頂いた賜物である。今後とも生涯教育を継続していく中で、興味を持って勉強した事や示唆に富んだ経験をされた事を新潟県臨床検査学会でご発表いただければ学会として大きく成長を遂げる事ができる。在宅で求められる臨床検査技師、救急の現場で活躍する臨床検査技師、どちらも受け身ではなく積極的に働きかけ、検査室から一歩踏み出し、医療現場において輝ける臨床検査技師を目指していただければ幸いです。

2. 検査研究部門

中村 岳史

平成30年度検査研究部門は、9部門3分野(生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門、臨床検査総合部門)の9部門、臨床生理部門は、神経生理分野、循環生理・呼吸生理分野、超音波分野の3分野)で組織構成され、部門構成員は最大各部門6名、各分野4名、活動費は各部門12万円、各分野8万円で運営された。

今年度、検査研究部門が開催した研修会は、合計17回であった(昨年度21回、一昨年度19回)。各部門分野別では、生物化学分析部門1回、臨床一般部門2回、臨床血液部門1回、臨床微生物部門1回、輸血細胞治療部門2回、病理細胞部門1回、染色体・遺伝子部門1回、臨床生理部門(部門として1回、神経生理分野1回、循環生理・呼吸生理分野1回、超音波分野3回)、臨床検査総合部門2回であった。研修会開催数は、昨年度より減少しているが、今年度は北日本支部研修会の実務担当であった部門が4部門(生物化学分析部門、臨床一般部門、病理細胞部門、臨床検査総合部門)あり、開催数の減少につながったと考えられた。例年の開催数と比較しても17回の開催を保持したことは各部門の努力によるものと思われた。

研修会の内容は、各部門初心者を対象とした基礎的内容のものから専門性の高い内容や最新のトピックスなど幅広く企画されており、多くの会員が参加しやすい内容であった。また、実技研修も積極的に開催されており、技術面における向上にも寄与できた研修会内容であったと考えられた。

検査研究部門の研修会

部門	開催日	生涯教育点数	参加人数		研修会内容
			会員	非会員	
生物化学分析	平成30年 12月8日(土)	専門20	19名	0名	【新潟県臨床検査技師会生物化学分析部門／第49回日本臨床化学会甲信越支部新潟分会／生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会第15回研修会合同研修会】 1. 「肝炎を取り巻く検査の現状」 新潟県立がんセンター新潟病院 小野間健介 2. 「後天性血友病とその凝固検査」 新潟大学医歯学総合病院 松田 将門 会場：新潟大学医学部医学科共同研究棟1階 第5講義室 *日本臨床化学会甲信越支部新潟分会および生物試料分析科学会甲信越支部新潟分会と共催
臨床一般	平成30年 12月22日(土)	専門20	57名	7名	【平成30年度新臨床臨床一般部門研修会】 1. 「平成30年度新臨床精度管理調査一般フォトサーベイについて」 新臨床精度管理調査一般部門担当 2. 「CKD 対策における検診の位置づけ～検診の立場からみた尿蛋白(±)とCKDの関わり(横断的・縦断的解析)」 新潟県健康管理協会 田中 一成 3. 「臨床検査技師が考えたい!尿蛋白の出現メカニズム!!」 KKR 札幌医療センター 太田 惣 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室
	平成31年 3月2日(土)	専門20	26名	1名	【平成30年度臨床一般部門実技研修会】 1. 「尿検査トラブルシューティング&尿沈渣出現成分について」 新潟市民病院 病理検査科 宮路 浩 2. 「鏡検実習」 3. 「質疑など」 会場：新潟医療技術専門学校 西新潟中央病院キャンパス実習室3
臨床血液	平成30年 8月11日(土) 8月12日(日) どちらか一方	専門20	26名	0名	【平成30年度臨床血液部門実技研修会】 [末梢血における血液像観察のポイント説明および鏡検実習] 獨協医科大学病院 新保 敬 会場：新潟医療技術専門学校 西新潟中央病院キャンパス実習室
臨床微生物	平成30年 9月29日(土)	専門20	22名	1名	【平成30年度新臨床臨床微生物部門研修会】 1. 「グラム陽性球菌の薬剤感受性試験から耐性菌」 新潟県立中央病院 山本 純子 2. 「グラム陰性桿菌の薬剤感受性試験から耐性菌」 長岡赤十字病院 高野 美菜 会場：新潟医療技術専門学校 西新潟中央病院キャンパス
輸血・細胞治療	平成30年 7月8日(日)	専門20	71名	2名	【輸血細胞治療部門 輸血検査実技講習会】 (基礎コース) 血液型、不規則抗体検査を実施し、凝集の見方、試験管の振り方等、初歩的な技術・考え方の習得を目指します。新人や専門に輸血検査をやられていない初心者、初級レベルの方が対象(認定および技能維持コース) 血液型、不規則抗体検査、抗体解離試験等を実施し、総合的に輸血検査の理解を深めます。専門に輸血検査をやられている方や、ある程度の基礎技術を持っている中級者レベル以上の方が対象 会場：新潟医療福祉大学 第6研究棟 N401・N402
	平成30年 11月3日(土)	専門20	45名	6名	【平成30年度輸血細胞治療部門研修会】 1. 「輸血検査の精度管理」 オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社 岩本 泉 2. 「認定輸血検査技師 認定試験について」 下越病院 大倉 一晃 3. 「臨床検査技師のための造血幹細胞移植にかかわる基礎知識」 自治医科大学付属病院 輸血・細胞移植部 岸野 光司 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室
病理細胞	平成31年 3月16日(土)	専門20	23名	3名	【第40回新潟病理技術研究会(病理細胞部門共催)】 1. 「スライドガラスのデジタル画像活用例」 (株)バシメージング 田中 哲 2. 「脱水・脱脂・パラフィン浸透のコツとポイント」 (株)サクラファインテックジャパン 篠田 宏 3. 「ホルマリン固定による核酸品質への影響」 新潟県立がんセンター新潟病院 畔上 公子 4. 「脳血管障害の病理」 新潟脳外科病院 病理部長 武田 茂樹 会場：新潟脳外科病院 10階 大講堂 *新潟病理技術研究会と共催
染色体・遺伝子	平成30年 12月1日(土)	専門20	29名	9名	【平成30年度染色体・遺伝子部門研修会】 1. 「遺伝子関連検査における精度管理・標準化」 サーモフィッシュャーダイアグノスティックス株式会社 龍崎 大輔 2. 「がんゲノム検査の最前線～今、求められるスキルとは～」 慶応義塾大学 医学部 柳田絵美衣 3. 「遺伝子解析に必要なPCRの基礎と臨床検体からの遺伝子解析ポイント」 ライフテックノロジージャパン株式会社 白神 博 4. 「遺伝子検査概説～解析技術とゲノム情報のいま～」 MBL株式会社医学生物学研究所 武安 岳史 5. 「大腸がん診療のためのRAS・BRAF 遺伝子検査～MEBGEN RAS KIT-B キットのご紹介」 MBL株式会社医学生物学研究所 武安 岳史 会場：新潟大学医学部 第4講義室

臨床生理	平成30年 6月23日(土)	専門20	96名	8名	【生理検査基礎セミナー】 1.「レクチャー」 ①ここだけは押さえない心電図検査 済生会三条病院 桑原喜久男 ②呼吸機能検査の基礎 新潟大学医歯学総合病院 加藤 靖彦 ③血液データの読み方 新潟医療技術専門学校 伊藤 正行 2.「腹部の画像診断—ビューワを用いて見ます—」 新潟県立がんセンター新潟病院 放射線診断科部長 尾崎 利郎 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室
神経生理分野 平成30年 11月24日(土)	専門20	39名	0名	【平成30年度 神経生理検査セミナー2018】 1.「ABRで何がわかるか」 新潟大学医歯学総合病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 泉 修司 2.「聴力検査の基本のおさらいとメンテナンスについて」 プレヒアメディカル株式会社 白井 浩之 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室	
循環・呼吸生理 分野 平成31年 3月17日(日)	専門20	81名	4名	【心電図セミナー2019】 1.「緊急報告心電図を診る」 社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 高野小百合 2.「自律神経興奮と心電図指標」 新潟大学医学部保健学科 齋藤 修 3.「ペースメーカー心電図の基礎と臨床」 三菱京都病院 山田 宣幸 4.「症例検討会」 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室	
超音波分野 平成30年 8月5日(日)	専門20	17名	0名	【平成30年度超音波検査士対策セミナー】 「超音波検査に必要な物理学的基礎知識」 キヤノンメディカルシステムズ超音波営業部 浜田 聡明 会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 小会議室	
超音波分野 平成30年 8月4日(土) 長岡会場 8月5日(日) 新潟会場	専門20	長岡 28名 新潟 32名	長岡 0名 新潟 0名	【平成30年度超音波実技セミナー】 セミナー内容 心臓超音波 済生会三条病院 桑原喜久男 JA 新潟厚生連新潟医療センター 三富 圭 腹部超音波 JA 新潟厚生連小千谷総合病院 寺島 健 新潟県立中央総合病院 宮崎 智美 頸動脈エコー JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 大矢 佳奈 新潟会場：新潟大学医歯学総合病院 12階 大会議室 長岡会場：JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 超音波分野	
超音波分野 平成30年 12月8日(土)	専門20	87名	0名	【平成30年度血管エコーセミナー】 1.「標準的評価法を踏まえた頸動脈エコーの実際」 東邦大学医療センター大森病院 八嶽 恒芳 2.「新ガイドラインに基づいた超音波による深部静脈血栓症・下部静脈瘤診断」 埼玉医科大学国際医療センター 山本 哲也 会場：JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 2階 講堂	
臨床検査総合	平成30年 8月11日(土)	基礎20	11名	10名	【臨床検査総合部門管理運営研修会】 1.「医療環境トピックスと臨床検査技師の価値向上に向けて」 シスメックス株式会社トータルソリューションズ課 2.「2018年診療報酬改定に見る検査の役割変化」 シーメンスヘルスケア株式会社 松尾 久昭 会場：新潟テルサ 研修会室1
	平成30年 11月3日(土)	専門20	19名	4名	【平成30年度臨床検査総合部門(公衆衛生)研修会】 1.「保菌者検査法 GeneFieldsEHEC/SS について」 極東製薬工業株式会社 波多 宏幸 2.「百日咳の疫学と検査法について」 国立感染症研究所 細菌第二部第一室 大塚 菜緒 会場：コープシティ花園「ガレソン」4階 会議室

3. 精度管理事業

坂西 清

本年度も新潟県から新潟県医師会への委託事業である平成30年度(第39回)新潟県臨床検査精度管理調査会を行った。技師会としても積極的に当事業に協力し、集計、解析を含めた実務の中心的役割を果たすと共に、臨床検査の精度向上に努めた。

本事業を担当する精度管理委員会は全体会議と臨床化学担当の分科会を含め計6回開催し、実施計画及び配送準備、データ集計、解析を実施した。

微生物検査は技師会が担当する一般菌1菌種の感受性と、新潟県保健環境科学研究所が担当する2菌種の同定を合わせて実施した。

臨床化学は昨年同様28項目を実施した。調査試料は低濃度域に自家製ヒトプール血清を用い、高濃度域には市販管理試料を用いた。評価基準は(一社)日本臨床衛生検査技師会精度管理調査に準じた。

本年度も酵素項目はReCCS標準物質を用い、JSCC常用基準法にトレーサブルであるJSCC SOP法で目標

値を設定した。しかし、ALT、ALP、LD 本法測定値と報告平均値に差が見られたため、これらの項目については基幹施設報告平均値を目標値とした。濃度項目は基幹施設に依頼して、ReCCS 標準物質を用いた日常検査法で目標値を設定した。クロール (Cl) については、ReCCS 標準物質がドライアイスの影響を受けることが判明したため、基幹施設報告平均値を目標値とした。HbA1c は測定原理別では報告値に若干差が見られたが、メーカー間での報告値は縮小した。今年度は1濃度であったが、今後2濃度実施について検討したい。ドライケミストリー法は以前と比較してばらつきが低下しているが、wet 法と比べるとばらつきが大きく測定原理によるものと考えられる。簡易に測定できる装置ではあるが、日々のメンテナンス、精度管理は必須であると感じた。

集計に用いた精度管理用システム (JAMTQC) は5施設未満の集団の統計処理、および目標値の設定が不可能である。そのため、方法別および試薬別に目標値を設定した項目で5施設未満の場合は評価を「施設別報告書」に反映させることが不可能であることから「対象外」の表記になる。ご不便をおかけすることをお詫びするとともに、目標値を参考に自施設の正確度の判断をお願いしたい。

集計作業の迅速化、誤登録防止を目的に、日本臨床衛生検査技師会の精度管理システムを使用しての Web 報告を実施し、特に問題なく報告作業は行われたが、まだ不備がある事から、日臨技との連携を密にして改善していきたい。

精度管理調査事業の内容は以下のとおりである。

1. 試料の到着 臨床化学は平成30年11月12日 (月) に各施設に設到着。
2. 測定日 サンプル到着後、可能な範囲で速やかに実施。
3. 測定項目

1) 臨床化学 ※生化学試料：冷凍試料・HbA1c 試料：冷蔵試料

グルコース (Glu)、ヘモグロビン A1c (HbA1c)、総ビリルビン (TB)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C 反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL- コレステロール (HDL)、LDL- コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ - グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE) の28項目。

ドライケミストリー法は本年度も無機リン (IP)、総ビリルビン (TB) の参加は選択可能。また、LDL- コレステロール (LDL) は実施せず。

2) 血液 ※血液試料：冷蔵試料

CBC 6 項目 (ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積)

4. 測定方法

各施設で使用している試薬、機器を用いて測定。

測定回数はルーチン検査と同様、「1回測定」の測定値を報告。また、他施設の情報を得ることは禁止とします。

5. サンプル及び取り扱い

1) 臨床化学

※ドライケミストリー法は専用のサンプル13、14を測定。

試料	測定項目	取扱い上の注意
11	グルコース (Glu)、総ビリルビン (TB)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
12	ヒト血清由来凍結品です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
13 (DRY I) 14 (DRY II) ※ドライケミストリー法専用	グルコース (Glu)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)	ヒト血清です。サンプル到着後は-40℃以下に凍結保存してください。不可能な場合、できるだけ速やかに測定してください。測定時は流水中で融解してください。また、感染性の確認はしてありません。取り扱いには十分注意してください。
17	ヘモグロビン A1c (HbA1c)	ヒト血液です。通常の検体と同様に測定してください。感染性の安全はできる範囲で確認済みですが、取り扱いには十分注意してください。また、サンプル到着後は冷蔵保存し、できるだけ速やかに測定してください。

2) 血液

試料	測定項目	取扱い上の注意
41	ヘモグロビン濃度、血小板数、白血球数、赤血球数、ヘマトクリット値、平均赤血球容積	<p>市販管理血球です。サンプル到着後は冷蔵保存してください。(凍結厳禁)。感染性の完全否定はできませんので、取り扱いには十分注意してください。</p> <p>[装置の測定条件]</p> <ol style="list-style-type: none"> マニュアルとクローズドの測定モードがある場合、マニュアルモードで測定してください。 患者検体を測定するモードで測定してください。 CBCのみ(白血球分画等なし)のモードで測定をお願いします。CBCのみにできない機種はそのまま測定してください。なお、赤芽球等を白血球から除外する機能を有する機種の場合、除外前の白血球数で報告してください。 ヘモグロビン測定において、シアンを用いるか用いないかの方法選択ができる機種については、通常業務で用いている方法で行ってください。 <p>[試料の準備と測定]</p> <p>室温に15分間静置後、静かに転倒混和ときりもみを繰り返し行い、充分に混和してください。(激しく振ることは絶対に避けてください)。よく混和された状態で、直ちに測定してください。</p> <p>報告値については、「測定機種に依存する注意事項について」を参照してください。</p>

6. 成績報告締切：平成30年11月19日(月)

7. 報告(臨床化学・血液)

日臨技システムでの報告。日本臨床衛生検査技師会のHPよりJAMT QCに入っていたいただき、参加登録、試料到着の登録を実施後、システムにて報告。

8. 参加費 昨年までと同様に無料。

9. 目標値と評価基準について

1) 臨床化学

グルコース (Glu)、ナトリウム (Na)、カリウム (K)、クロール (Cl)、カルシウム (Ca)、尿酸 (UA)、尿素窒素 (UN)、クレアチニン (Cre)、総コレステロール (TC)、中性脂肪 (TG)、HDL-コレステロール (HDL)、LDL-コレステロール (LDL)、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)、アルカリフォスファターゼ (ALP)、乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)、アミラーゼ (AMY)、クレアチンキナーゼ (CK)、 γ -グルタミルトランスフェラーゼ

ゼ (GGT)、コリンエステラーゼ (ChE)、ヘモグロビン A1c (HbA1c) は次頁の表の標準物質及び測定方法で目標値を設定し、日本臨床衛生検査技師会精度管理調査の評価基準に準じて評価を行います。HDL-コレステロール (HDLc)、LDL-コレステロール (LDLc) は測定試薬別に評価を行います。ドライケミストリー法も同様に評価を行います。日本臨床衛生検査技師会精度管理調査の評価基準を以下に示します。ただし、反応性等に問題が確認された場合、変更する場合があります。総ビリルビン (TB)、無機リン (IP)、鉄 (Fe)、マグネシウム (Mg)、総蛋白 (TP)、アルブミン (Alb)、C反応性蛋白 (CRP) は評価せず、単純集計のみを実施します。

【日本臨床衛生検査技師会臨床化学部門評価基準】

項目、試料ごとに目標値を定め、さらに目標値に対して以下に示す評価幅を加え評価基準とする。

評価A：「基準」を満たし、優れている

目標値±生理的変動を基に算出した施設間の許容誤差限界 (analytical bias, B_A)*¹⁾ 内の報告値。健常人の生理的変動幅から算出され、項目によっては大きな数値となっているため、上限を5%に設定した。

*¹⁾ B_A：日本臨床化学会クオリティマネジメント専門委員会：生理的変動に基づいた臨床化学検査36項目における測定の許容誤差限界、臨床化学2006；35：144-153

評価B：「基準」を満たしている

目標値±体外診の性能確認幅*²⁾ 内の報告値。但し、現状の取束状況を考慮し上限を5%と設定した。

*²⁾ 体外診の性能確認幅：平成9年の医薬発139号の厚生省医薬安全局長通知（体外診断用医薬品の取扱いについて）、医薬審第181号の医薬安全局長管理課長通知、厚生省医薬安全局審査管理課事務連絡（体外診断用医薬品の申請の際の性能の確認について）、等の許容測定変動係数（範囲）に準じた

評価C：「基準」を満たしておらず改善が必要

目標値±評価Bの幅を超え、この幅の最大1.5倍までの報告値。

評価D：「基準」を満たしておらず改善が必要

目標値±評価Cの幅を超えた報告値。

臨床化学目標値設定方法と評価基準

項目	単位	標準物質	測定方法	評価基準	
グルコース (Glu)	mg/dL	ReCCS 標準品	ヘキソキナーゼ法、電極法	目標値±2.3%	
ナトリウム (Na)	mEq/L		電極法	目標値±2 mEq/L	
カリウム (K)	mEq/L		電極法	目標値±0.2mEq/L	
クロール (Cl)	mEq/L		電極法	目標値±2 mEq/L	
カルシウム (Ca)	mg/dL		各種測定方法	目標値±1%	
尿酸 (UA)	mg/dL		ウリカーゼ・POD法	目標値±5%	
尿素窒素 (UN)	mg/dL		アンモニア消去法	目標値±5%	
クレアチニン (Cre)	mg/dL		酵素法	試料11目標値±10% 試料12目標値±4.8%	
総コレステロール (TC)	mg/dL		酵素法	目標値±4.5%	
中性脂肪 (TG)	mg/dL		酵素法 (FG 消去)	目標値±5%	
HDL-コレステロール (HDLc)	mg/dL		各社直接法	目標値±5%	
LDL-コレステロール (LDLc)	mg/dL		各社直接法	目標値±5%	
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)	U/L		JCCLS CRM001	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±5%
アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)	U/L			JSCC (JCCLS) 自動化法	試料11目標値±10% 試料12目標値±5%
アルカリフォスファターゼ (ALP)	U/L	JSCC (JCCLS) 自動化法		目標値±5%	
乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)	U/L	JSCC (JCCLS) 自動化法		目標値±5%	
アミラーゼ (AMY)	U/L	JSCC (JCCLS) 自動化法		目標値±5%	
クレアチンキナーゼ (CK)	U/L	JSCC (JCCLS) 自動化法		目標値±5%	
γ-グルタミルトランスフェラーゼ (GGT)	U/L	JSCC (JCCLS) 自動化法		目標値±5%	
コリンエステラーゼ (ChE)	U/L	JCCLS CRM002	JSCC (JCCLS) 自動化法	目標値±4.7%	
ヘモグロビン A1c (HbA1c)	%	JCCRM411	HPLC 法	目標値±5%	

2) 血液

ヘモグロビン・血小板数・白血球数・赤血球数について、各メーカー製キャリブレーターにより校正が行われた装置で、測定のコラボが得られた機種について、その値を目標値に設定し、機種別に評価基準に添って該当機種のサンプルについて評価を行った。

ヘモグロビン・白血球数・赤血球数について、評価基準は臨床的許容限界 JCCLS、1994を基に設定した。血小板数については、試料の目標値が基準値下限付近であることから、他県の精度管理の状況を参考に設定した。

ヘマトクリット、平均赤血球容積は評価せず、単純集計のみを実施した。

血液検査 評価基準

項目	単位	目標値設定装置	評価基準
ヘモグロビン	g/dL	ICSH CLSI の推奨する国際標準法にトレーサビリティが確保された各メーカーキャリブレーターにより校正された装置	目標値±3.6%
血小板数	×10 ⁹ /L		目標値±10.0%
白血球数	×10 ⁹ /L		目標値±5.6%
赤血球数	×10 ¹² /L		目標値±4.1%

3) 一般フォトサーベイ

1 一般検査フォトサーベイを実施した。設問数は12設問。他、参考調査として尿沈渣検査3問、寄生虫検査4問実施。

2 問題について

平成30年11月12日（月）から、「日臨技精度管理調査システム」より閲覧・ダウンロードが可能とした。

3 回答締切：平成30年11月19日（月）23：59

4 回答方法

日臨技精度管理調査システムを使用した。

5 注意事項として「可能な限り鑑別しやすい写真を選定したが、プリントアウトする場合は印刷機の性能により判別が難しくなることがあります。必ず一度はダウンロードしたPDF ファイルをPC モニター上で確認してください。」と記載。

6 評価方法

「臨床検査精度管理調査フォトサーベイ評価法における日臨技指針」に則り、評価を行った。

4) 微生物（薬剤感受性）精度管理調査実施要項

1 検査開始日：試料を受取り次第、検査を実施。

2 検査項目：試料中に含まれる病原細菌のアンピシリン（ABPC）、セフトキシムキシチン（CTX）、メロベネム（MEPM）3薬剤について薬剤感受性検査を実施し、日常的に臨床へ行う最終報告とした。

3 検査方法：各施設で日常的に行っている方法で実施。

4 試料：試料Cを用いて実施。

5 試料の取扱い：試料は検査開始まで冷蔵保存。

6 試料の調整：試料Cはカジトン培地にて保存。

7 報告期限：平成30年11月30日（金）締め切り

8 報告方法：結果報告はWEB報告とした。

4. 生涯教育

近藤 善仁

各検査研究班・各支部担当者にご尽力いただき、行事登録および参加者登録を行っていただいた。日臨技情報総合システム（JAMTIS）の操作にも慣れ、スムーズに処理を実行できた。また、日臨技より支給される「生涯教育推進研修会助成金」の交付額は、17研修会・計652,500円を受け取ることができた。

広報部

副会長 坂西 清

今年度も、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの運営を軸に全会員にリアルタイムに情報の提供が出来るよう心がけて運営をしてきた。特にホームページは規律ある運営の中、会員に有益な情報をできるだけ早く掲載することに努め、情報発信手段として安定した運営を目指し活動を行ってきた。理事会終了後に発行する新臨技ニュースは、理事会議事要旨、研修会案内および求人情報など新臨技の新しい情報をいち早く会員施設へ提供できた。会誌に関しては、初めての演題発表者に焦点をあてる学会参加報告や施設紹介など会員に親しみやすい内容から、学術的な内容まで幅広い内容の会誌発行を務めてきた。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

〔講義・研究〕基礎的な内容から最新の情報まで幅広い分野において掲載した。

〔研修会報告〕参加会員の協力を得て研修会を身近に感じ、参加できなかった会員の方にも講義内容をお伝えすることができる頁とした。

〔認定技師制度紹介〕臨床検査技師に関わる様々な認定資格を紹介し、スキルアップに繋がる情報を提供した。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

誰もが参加でき、新入会員の紹介や会員の日常、仕事での活躍ぶりを掲載することで会員同士の繋がりを深める頁となった。

〔公益活動参加報告〕公益活動は一般の方に臨床検査技師を知っていただく大変良い機会であり、その活動内容を把握し多くの会員に参加していただけるような情報ツールとした。

〔施設紹介〕上越・中越・下越・新潟支部で1施設ずつ病院紹介をさせていただき、施設情報の共有を図った。

〔学会参加報告〕初めて学会発表した会員に感想を含めた報告書を執筆していただき、これから発表を考えている会員の参考にしていただけるよう努めた。

年4回 季刊発行（307号から310号まで）

〈平成30年度会誌掲載内容〉

307号 平成30年4月1日

〔講義〕マルチプレックスPCRを用いた臨床症状アプローチ

藤吉 章雄

自動血球分析装置における血小板数測定の変遷

高橋 一三

輸血検査の基礎

高橋 一哲

てんかんモニタリングユニット（EMU）における臨床検査技師の役割

土屋 邦子

〔篠川至賞とは〕篠川 至賞について

坂西 清

〔お知らせ〕第92回新潟県臨床検査学会案内（予告）

〔受賞者の言葉〕第91回新潟県臨床検査学会テーマ賞を受賞して

鈴木 英明

〔学会参加報告～初めて学会発表してみ～〕

学会報告につきまして

桑原喜久男

第91回新潟県臨床検査学会一般演題発表者

青柳 真佳、加藤 瑞希、齋藤 芳弘、新田 敏貴、平野江理子、森田 祐貴、
田中 雄也、小林 弘樹、横山 和弘

〔研修会参加報告〕

第91回新潟県臨床検査学会に参加して	古田 美砂、加藤 由衣
第91回新潟県臨床検査学会に参加して	末永 有香
第91回新潟県臨床検査学会に参加して	早福 智恵
第91回新潟県臨床検査学会に参加して	笹岡 秀之
てんかんに関する臨床検査技師の研修会について	霜田由美子
平成29年度病理細胞部門研修会に参加して	川口裕貴恵
平成29年度新潟県臨床検査技師会臨床検査総合部門（公衆衛生）研修会参加報告	丸山 智子
第二回下越支部研修会に参加して	坂井 郁美
平成29年度臨床一般部門実技研修会に参加して	石黒 杏佳
臨床血液部門研修会に参加して	小林 徹
新臨技臨床微生物部門研修会に参加して	鈴木 里奈
新潟県臨床検査技師会災害対策研修会参加報告	井上 敏男
新潟支部臨床化学研修会に参加して	北神優太郎

〔施設紹介〕JA 新潟厚生連 小千谷総合病院

〔ペンリレー〕

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

深谷 響己、酒井 拓也、水澤 望、安村かほり、志田 成美

〔会 報〕

平成30年度通常総会議案書
平成29年度第7回理事会議事録
平成29年度第8回理事会議事録
平成29年度第9回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌

〔行事予定〕

308号 平成30年7月1日

〔講 義〕

ペースメーカーの基礎とこれからの発展
認知症について—疾患編—

日本メドトロニック株式会社
寺島 健

〔受賞者の言葉〕

篠川至賞を受賞して
篠川至賞を受賞して
生涯教育新人賞を受賞して

松田 和博
菅原 芳秋
野中 拓

〔研修会参加報告〕

第2回新潟支部研修会に参加して	村木 憲一
平成30年中越支部講演会に参加して	奈良 佳輝
上越支部春季研修会に参加して	長井菜々子
下越支部研修会に参加して	小林 佳菜

佐渡支部研修会に参加して
平成29年度病理細胞部門研修会（第2回）に参加して
臨床血液部門研修会に参加して
第4回新潟「人道と緊急支援の国際基準トレーニング（基礎編）」を受講して
〔施設紹介〕 社会福祉法人 恩賜財団 済生会新潟第二病院
〔認定技師制度紹介〕
認知症領域認定検査技師
細胞治療認定管理師
〔ペンリレー〕
〔検査技師として～私の奮闘記～〕

佐藤 駿
片桐 丘充
田中 勇気
宮澤 晴美
千味 和宏

寺島 健
青木 寿成
樋口 達彦

小玉瑛里樺、鈴木 杏奈、樋口 京花、磯西 拓人、長谷川絢香

〔会 報〕

平成29年度 第10回理事会議事録
平成30年度 第1回理事会議事録
平成29年度 監査報告

平成29年度 公益目的支出計画実施報告書（未）

通常総会議事録
平成30年度1回通常総会からアンケート回答
新入会員紹介
新臨技会日誌

〔行事予定〕

309号 平成30年10月1日

〔講 義〕

麻疹・風疹について
認知症について②－認知症関連検査編－

影向 晃
寺島 健

〔案 内〕 第92回新潟県臨床検査学会

〔研 究〕 第92回新潟県臨床検査学会抄録

〔公益事業参加報告〕

「父の日企画 家族で守ろうパパの健康」に参加して
佐渡糖尿病ウォークラリー2018に参加して

田村 正史
遠藤 恭平

〔研修会参加報告〕

生理検査基礎セミナーに参加して
平成30年度第1回新潟支部研修会に参加して
平成30年度中越支部フォーラムに参加して
平成30年度「輸血細胞治療部門 輸血検査実技講習会」に参加して

清水沙也加
宮路 渚
青木 康博
福田 祐介
澤渡 哲也
高橋 直也
岡村 祐希

〔施設紹介〕 新潟県立津川病院

〔認定技師制度紹介〕 緊急臨床検査士

〔ペンリレー〕

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

佐藤 駿、西村 梨南、信田 佳穂、石黒 杏佳、三浦 駿、宮野 柚花、吉田 朋浩、鈴木 里奈

〔会 報〕

平成30年度 第2回理事会議事録
平成30年度 6月常任理事会議事録
平成30年度 第3回理事会議事録
新入会員紹介
新臨技会日誌

〔行事予定〕

310号 平成31年1月1日

〔あいさつ〕 年頭のご挨拶

渡邊 博昭

〔講 義〕 認知症についてその③－医療・介護連携編－

寺島 健

〔研 究〕

生化学汎用自動分析装置におけるインスリン試薬の性能評価と臨床的有用性
－『ノルディア®インスリン』を中心とした比較検討－

近藤 善仁

〔公益事業参加報告〕

「ピンクリボンホリデー2018に参加して」

板垣佐知子

無料 HbA1c 測定会に参加して

山田 玲子

「～Let's Try 糖尿病予防～ まちなか健康フェスティバルに参加して」

林 真也

糖尿病を知る集いに参加して

大瀧 直也

〔学会参加報告〕

～学会デビューおめでとうございます～

桑原喜久男

〔第92回県学会 初めて学会発表してみて〕

菅原 陽子、石川 幸生、鈴木 克弥、加藤 史帆、佐藤 梨絵、笠原 綾夏、
菅田 英樹、松原 千秋、大橋由美子、涌井 萌香、小林 望美、志賀 篤

〔研修会参加報告〕

佐渡支部研修会を終えて

山田 将也

平成30年度超音波実技セミナーに参加して

本間 優里

平成30年度超音波実技セミナーに参加して

三浦 千佳

平成30年度第1回下越支部研修会に参加して

斎藤 芽衣

平成30年度超音波検査士対策セミナーに参加して

中村 彩

平成30年度臨床血液部門研修会に参加して

谷川 恵

平成30年度第2回新潟支部研修会に参加して

野中 拓

第92回新潟県臨床検査学会参加報告

岡部 夏月

第92回新潟県臨床検査学会に参加して

小野間健介

第92回新潟県臨床検査学会に参加して

渡邊 亮太

第92回新潟県臨床検査学会に参加して

鶴間 純

第92回新潟県臨床検査学会に参加して

北神優太郎

平成30年度 新潟臨床検査技師会 染色体・遺伝子部門研修会に参加して

三橋日菜子

〔施設紹介〕 JA 新潟厚生連上越総合病院

丸山 茜

〔認定技師制度紹介〕 生殖補助医療胚培養士について

若山 正隆

〔ペンリレー〕

草野 号

〔検査技師として～私の奮闘記～〕

五位野 誠、谷川 恵、津島 千花、坂井 郁美、亀田 咲来、石田 櫻子、鈴木 真菜、笹岡 朝美
〔会報〕

平成30年度 第4回理事会議事録

平成30年度 第5回理事会議事録

新入会員紹介

新臨技会日誌

〔行事予定〕

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事要旨、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性・実用性のある情報を掲載してきた。また掲載情報の正確性・即時性を考慮し、可能な範囲で早く各施設に届くように努めてきた。発行は理事会終了後の月1回とした。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。日臨技からの情報や近隣技師会の研修会、共催や後援事業についても会員にとって有益な場合は掲載した。また、研修会のスライドデータやRCPCの症例など配信の依頼があれば柔軟に対応した。精度管理事業の施設別報告値一覧も Web 上にて公開した。

【主要行動報告】

1. 4月05日 新潟医療技術専門学校入学式に桑原副会長出席
2. 4月11日 北里大学保健衛生専門学院入学式に坂西副会長出席
3. 4月21日 学術部会議開催
4. 4月21日 第1回理事会
5. 4月22日 新潟県臨床検査技師会 ニューリーダー育成研修会開催
6. 4月28日 第1回表彰委員会開催
7. 5月12日 第36回篠川至賞選考委員会
8. 5月12～13日 第67回日本医学検査学会（浜松市）の役員として坂西副会長出席
9. 5月18日 平成29年度検査技師会監査
10. 5月19日 第2回理事会
11. 5月22日 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会へ五十嵐理事出席
12. 5月30日 健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会へ桑原副会長出席
13. 6月05日 新潟市糖尿病週間第1回イベント会議へ畔上理事出席
14. 6月19日 第1回精度管理委員会
15. 6月23日 6月常任理事会
16. 6月28日 第1回編集委員会
17. 6月29日 公益財団法人新潟県健康づくり財団第16回定時評議員会へ渡邊会長出席
18. 7月06日 平成30年度第1回北日本支部幹事会（郡山市）へ渡邊会長出席
19. 7月21日 第3回理事会
20. 7月23日 第10回新潟県救急搬送・受入協議会に古谷理事出席
21. 7月23日 県学会の打ち合わせ（朱鷺メッセ）に佐藤事務局次長出席

22. 7月25日 ピンクリボンホリデー2018の打ち合わせに五十嵐理事 WEB 参加
23. 7月25日 第1回臨床検査精度管理協議会に草間理事出席
24. 8月26日 8月常任理事会
25. 9月13日 検査と健康展の打ち合わせに佐藤事務局次長、畔上理事出席
26. 9月18日 ピンクリボンホリデー2018の打ち合わせに五十嵐理事 WEB 参加
27. 9月19日 第2回編集委員会
28. 9月22日 第4回理事会
29. 10月02日 糖尿病関連イベントの打ち合わせに畔上理事出席
30. 10月12日 第35回がん征圧新潟県大会に桑原副会長出席
31. 10月12日～14日 地域ニューリーダー育成研修会に寺島理事出席
32. 10月16日 朱鷺メッセとの県学会打ち合わせに佐藤事務局次長出席
33. 10月20日 第5回理事会
34. 10月21日 新潟県作業療法士会公益社団法人移行記念式典に坂西副会長出席
35. 10月21日 ピンクリボンホリデー2018へブース出展
36. 10月26日 第63回予防医学事業推進全国大会へ阿部副会長出席
37. 10月27日 平成30年度新潟県医師会設立記念大会へ渡邊会長出席
38. 10月27日 無料ヘモグロビン A1c 測定会
39. 11月09日 北日本支部連絡会議（青森県）へ桑原副会長出席
40. 11月10日 北日本支部学会（青森県）式典へ渡邊会長出席
41. 11月10日 糖尿病関連イベントへ参画
42. 11月11日 糖尿病を知る集いへ参画
43. 11月23日 全国検査と健康展開催
44. 12月04日 ピンクリボンホリデーの打ち合わせに五十嵐理事 WEB 参加
45. 12月06日 第5回精度管理委員会
46. 12月15日 12月常任理事会
47. 12月15日 第3回編集委員会
48. 1月12日 第6回理事会
49. 1月22日 平成30年度第2回臨床検査精度管理協議会に坂西副会長、草間理事出席
50. 1月31日 平成30年度新潟県生活習慣病検診等管理指導協議会循環器等検診部に渡邊会長出席
51. 2月09日 2月常任理事会
52. 2月16日 新潟支部総会に渡邊会長出席
53. 2月22日 平成30年度第2回北日本支部幹事会に渡邊会長出席
54. 2月23日 上越支部総会に阿部副会長出席
55. 2月23日 佐渡支部総会に桑原副会長出席
56. 3月01日 第6回精度管理委員会開催
57. 3月02日 下越支部総会に渡邊会長出席
58. 3月02日～3日 認知症講習会開催
59. 3月05日 はっぴー乳ライフ実行委員会へ五十嵐理事 WEB 出席
60. 3月06日 新潟医療技術専門学校卒業式に桑原副会長出席
61. 3月09日 中越支部総会に坂西副会長出席
62. 3月10日 第7回理事会
63. 3月13日 新潟医療福祉大学卒業式へ渡邊会長出席

64. 3月13日 北里大学保健衛生専門学院卒業式へ坂西副会長出席
65. 3月25日 新潟大学医学部保健学科卒業式へ阿部副会長出席
66. 3月27日 第4回編集委員会開催
67. 3月29日 東北臨床検査技師会代表者会議（青森県）へ坂西副会長出席

事業報告に関わる附属明細書

事業報告を補足する事項はない。

平成30年度収支決算報告

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	10,208,251	11,946,087	△ 1,737,836
前払金	88,974	57,840	31,134
流動資産合計	10,297,225	12,003,927	△ 1,706,702
2. 固定資産			
会館建設引当預金	15,268,000	15,268,000	0
共済基金	1,724,000	1,724,000	0
篠川至賞基金	11,104,316	11,103,891	425
固定資産合計	28,096,316	28,095,891	425
資産合計	38,393,541	40,099,818	△ 1,706,277
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	8,294,500	8,112,000	182,500
流動負債合計	8,294,500	8,112,000	182,500
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	8,294,500	8,112,000	182,500
III. 正味財産の部			
一般正味財産	30,099,041	31,987,818	△ 1,888,777
(うち特定資産への充当額)	(28,096,316)	(28,095,891)	(425)
負債及び正味財産合計	38,393,541	40,099,818	△ 1,706,277

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	8,838,500	8,807,500	31,000
正会員受取会費	7,618,500	7,507,500	111,000
賛助会員受取会費	1,220,000	1,300,000	△ 80,000
事業収益	2,423,000	3,318,000	△ 895,000
参加費収益	1,613,000	2,148,000	△ 535,000
会誌広告収益	810,000	1,170,000	△ 360,000
受取補助金等	1,633,410	1,338,500	294,910
受取民間助成金	1,633,410	1,338,500	294,910
雑収益	770,820	756,810	14,010
受取利息	60,820	31,518	29,302
協賛金収益	700,000	518,823	181,177
雑収益	10,000	206,469	△ 196,469
経常収益計	13,665,730	14,220,810	△ 555,080
(2) 経常費用			
事業費	10,918,781	8,497,911	2,420,870
学会費	1,760,138	879,581	880,557
運営費	1,004,132	0	1,004,132
学術部活動費	2,170,605	2,102,190	68,415
学術雑費	131,553	87,660	43,893
臨床検査精度保証費	372,981	419,045	△ 46,064
会誌発行費	3,344,566	2,848,687	495,879
広報編集費	377,564	365,894	11,670
組織広報費	1,018,151	1,063,787	△ 45,636
災害対策費	0	71,000	△ 71,000
生涯教育表彰事業費	237,201	158,177	79,024
組織強化費	501,890	501,890	0
管理費	4,635,726	6,511,561	△ 1,875,835
備品費	41,036	0	41,036
消耗品費	93,287	106,885	△ 13,598
印刷費	328,071	502,160	△ 174,089
通信費	437,160	430,719	6,441
交通費	89,580	217,350	△ 127,770
渉外対策費	310,272	247,400	62,872
給料手当	572,000	644,000	△ 72,000
会議旅費	1,119,420	1,304,320	△ 184,900
事務所維持管理費	1,315,557	1,294,954	20,603

電話費	79,975	79,729	246
事務所雑費	6,313	2,080	4,233
交際費	72,078	146,557	△ 74,479
総会費	170,977	205,432	△ 34,455
法人化記念事業費	0	1,329,975	△ 1,329,975
雑費	0	0	0
経常費用計	15,554,507	15,009,472	545,035
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,888,777	△ 788,662	△ 1,100,115
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計			
当期経常増減額	△ 1,888,777	△ 788,662	△ 1,100,115
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額			
他会計振替額			
当期一般正味財産増減額	△ 1,888,777	△ 788,662	△ 1,100,115
一般正味財産期首残高	31,987,818	32,776,480	△ 788,662
一般正味財産期末残高	30,099,041	31,987,818	△ 1,888,777
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	30,099,041	31,987,818	△ 1,888,777

財 産 目 録

平成31年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金	638,385
普通預金	
第四銀行臨港支店	9,362,130
ゆうちょ銀行	207,736
前払金	88,974
流動資産合計	10,297,225
2. 固定資産	
会館建設引当預金	
第四銀行臨港支店（定期）	10,000,000
ゆうちょ銀行（定額5口）	5,268,000
共済基金	
ゆうちょ銀行（定額3口）	1,724,000
篠川至賞基金	
北越銀行県庁支店（定期）	5,003,316
ゆうちょ銀行（定額3口）	6,101,000
固定資産合計	28,096,316
資産合計	38,393,541
II. 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	8,294,500
流動負債合計	
2. 固定負債	0
固定負債合計	0
負債合計	8,294,500
正味財産	30,099,041

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	-	-	-	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,268,000	-		15,268,000
共済基金	1,724,000	-		1,724,000
篠川至賞基金	11,103,891	425		11,104,316
小 計	28,095,891	425		28,096,316
合 計	28,095,891	425		28,096,316

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
小 計	-	-	(-)	-
特定資産				
会館建設引当預金	15,268,000	-	(15,268,800)	-
共済基金	1,724,000	-	(1,724,000)	-
篠川至賞基金	11,104,316	-	(11,104,316)	-
小 計	28,096,316	-	(28,096,316)	(-)
合 計	28,096,316	-	(28,096,316)	(-)

4. 助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助成金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
助成金						
受取検査学会研修助成金	日本臨床衛生検査技師会	0	1,433,410	1,433,410	0	
受取臨床検査精度保証助成金	新潟県医師会	0	200,000	200,000	0	
合 計		0	1,633,410	1,633,410	0	

計算書類に係わる附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記2「基本財産及び特定資産の増減及びその残高」及び注記3「基本財産及び特定資産の財源等の内訳」に記載しているため省略する。

【上越支部】

1 秋季研修会：第111回上越支部研修会（生涯教育認定 専門20）

日時：平成30年 8月18日（土）上越市 市民プラザ 第2会議室

講演 1

・「認知症領域検査」～臨床検査技師のこれからの役割～

小千谷総合病院 寺島 健 技師

講演 2

・「ケアマネジャーの役割」

一般財団法人上越市地域医療機構 センター病院地域包括支援センター 宮川 玲 先生

2 春季研修会：第112回上越支部研修会（生涯教育認定 専門20）

日時：平成31年 2月23日（土）高陽荘

講演 1 「リキッドバイオプシーの概要および臨床検査への展望」

シスメックス株式会社 LS事業本部 LS営業部 植木 典子 先生

講演 2 「糖尿病関連のお話～糖尿病と口腔ケア、糖尿病と尿検査～」

アークレイマーケティング株式会社 統括本部 学術推進チーム 片瀬 優子 先生

研究班活動

1 検体研究班（臨床化学部門・微生物部門）

平成30年11月16日（金）新潟労災病院3階会議室 参加者：14名

「ウイルス肝炎マーカーの基礎知識と最近の話題」

アボットジャパン株式会社 土田 貴彦 先生

2 形態検査研究班（血液・血清部門・病理・一般部門）

平成30年10月26日（金）県立中央病院講堂 参加者：17名

「顕微鏡の基礎知識・調整・メンテナンス方法」

オリンパス株式会社ライフサイエンス営業部 垣谷 紘之 先生

3 生理検査研究班（生理検査部門）

平成30年10月31日（水）上越総合病院講堂 参加者：38名

「頸動脈エコー－基礎と評価法－」

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 高橋 涼 先生

地域保健活動

・平成30年 9月11日 第55回糖尿病内分泌研究会

『2型糖尿病における上越地域のポリファーマシーと残薬の現状調査』

『糖尿病重症化予防対策～多職種連携による糖尿病チーム医療の実践』

・平成30年11月27日 循環器談話会

役員会議

2018年（平成30年）

4月26日（木）定例役員会

5月30日（水）定例役員会（拡大）

6月28日（木）定例役員会

8月9日(木) 定例役員会
10月4日(木) 定例役員会
11月26日(月) 定例役員会
2019年(平成31年)
2月5日(火) 定例役員会
*計7回役員会議開催

平成30年度通常総会(生涯教育認定 基礎30)
平成31年2月23日(土) 高陽荘
内容:平成30年度活動報告および会計報告
平成31年度事業計画および予算

2019・2020年度支部役員について

役員 丸山 大輔 技師(県立中央病院)
役員 岡部 夏月 技師(県立中央病院)
役員 押山ルミ子 技師(新潟労災病院)
役員 水澤 望 技師(さいがた医療センター)
役員 吉浦 晶也 技師(けいなん総合病院)
役員 片沼 和輝 技師(上越総合病院)
役員 小島 功 技師(糸魚川総合病院)
役員 阿部 彰 技師(上越地域総合健康管理センター)
役員 大橋 千裕 技師(上越地域総合健康管理センター)

支部長には 県立中央病院 丸山 大輔 技師を選出

【中越支部】

〈研修会〉

1)平成30年度中越支部講演会(生涯教育認定 基礎20 参加43名)

日時:平成30年2月24日(土)14:00~16:30

場所:立川総合病院 講堂

講演Ⅰ「安全な採血で注意すること、血管迷走神経反射(VVR)と対応」

講師 ビー・エム・エル 顧問・東京医科大学分子病理学分野 山崎 家春 先生

講演Ⅱ「他職種連携について」

講師 新潟県臨床検査技師会 桑原喜久男 技師

2)中越支部フォーラム(生涯教育認定 基礎20 参加者55名)

日時:平成30年7月7日(土)14:00~17:00

場所:立川総合病院 講堂

講演Ⅰ:血液ガスデータの見方

講師 ラジオメータ(株) 営業サポートチーム 長谷川 剛 先生

講演Ⅱ:日当直でも怖くない!尿定性検査編

講師 アークレイ(株) 学術推進チーム 片瀬 優子 先生

講演Ⅲ:理解したい心電図の基礎と基本

講師 厚生連小千谷総合病院 寺島 健 技師

3) 中越支部ふれあい研修会 (生涯教育認定 基礎20 参加 66名)

日時：平成30年12月1日(土) 14:00~17:00

場所：立川総合病院 講堂

講演Ⅰ「髄液検査について」

講師 長岡赤十字病院 松雪 咲身 技師

講演Ⅱ「原虫の形態観察とその周辺」

講師 北里大学保健衛生専門学院 小林 浩二 技師

講演Ⅲ「血液型・輸血検査—試験管方法による対応、注意点—」

講師 輸血認定技師 反町 彰志 技師

〈公益事業〉

1) 父の日企画「家族で守ろうパパの健康チェック」(参加ボランティア技師 10名)

日時：平成30年6月3日(日) 11:00~15:30

場所：アオーレ長岡 ナカドマ

主催：ヘルシープラン21実行委員会・長岡市福祉保健部健康課

血糖測定、CO測定、体組成測定、血管年齢測定 170名

2) 糖尿病を知るつどい 2018 (参加ボランティア技師 10名)

日時：平成30年7月21日(土) 12:00~16:00

場所：長岡リリックホール(シアター) 来場者 300名

主催：長岡市医師会

血糖値測定 200名

3) すこやかともしびまつり 2018 (参加ボランティア技師 28名)

日時：平成30年9月29日(土)・30日(日) 両日 10:00~16:00

場所：アオーレ長岡 一般市民来場者 2日間 18,500名

主催：長岡市

肺年齢測定 820名

4) 世界糖尿病 DAY in 長岡 2018 (参加ボランティア技師 12名)

日時：平成30年11月3日(祝) 13:00~17:00

場所：アオーレ長岡

主催：長岡市医師会

血糖・HbA1c測定 90名

〈通常総会〉

平成30年度中越支部通常総会(参加47名)

日時：平成30年2月24日(土) 16:30~17:30

場所：立川総合病院 3F 講堂

〈支部理事会〉

第1回理事会 平成30年4月26日(木) 18:30~ 長岡赤十字病院 会議室

第2回理事会 平成30年5月24日(木) 18:30~ 長岡赤十字病院 会議室

第3回理事会 平成30年6月28日(木) 18:30~ 長岡赤十字病院 会議室

第4回理事会 平成30年7月26日(木) 18:30~ 長岡赤十字病院 会議室

第5回理事会 平成30年8月23日(木) 18:30~ 長岡赤十字病院 会議室

第6回理事会	平成30年9月27日(木)	18:30~	長岡赤十字病院	会議室
第7回理事会	平成30年10月25日(木)	18:30~	長岡赤十字病院	会議室
第8回理事会	平成30年11月22日(木)	18:30~	長岡赤十字病院	会議室
第9回理事会	平成31年1月24日(木)	18:30~	長岡赤十字病院	会議室
第10回理事会	平成31年2月28日(木)	18:30~	長岡赤十字病院	会議室

【下越支部】

〈研修会等〉

(1) 第1回支部研修会

日時：平成30年8月4日(土) 14:00~17:00

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：1. 夜間当直者と若手検査技師のための凝固検査の知っておきたい基礎知識

(遭遇する可能性のある検査異常値とその対応方法を中心に)

講師 積水メディカル株式会社 須長 宏行

2. 日当直でも怖くない!「尿定性検査、沈渣検査編」

講師 アークレイマーケティング株式会社 片瀬 優子

参加者：35名(会員32名)

生涯教育認定 基礎20点

(2) 第2回支部研修会

日時：平成30年12月1日(土) 14:00~16:30

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：1. 感染症の流行に備えて

講師 株式会社ミズホメディール 古賀 稔

2. 標準予防策(Standard Precautions)~感染対策の基本~

手洗い実習

講師 東京サラヤ株式会社 岩田 祥幸

参加者：25名(会員17名)

生涯教育認定 基礎20点

(3) 第3回支部研修会および総会

日時：平成31年3月2日(土) 13:30~17:15

場所：(一財)下越総合健康開発センター 2階 大講堂

内容：1. ISO15189の概要~SOP作成にあたって~

講師 シスメックス株式会社 萩原 朋子

2. 眼底検査 基礎知識

講師 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 深田 学

参加者：45名(会員31名)

生涯教育認定 基礎20点

内容：下越支部通常総会

参加者：23名

生涯教育認定 基礎30点

〈下越支部役員会〉

今年度は、支部研修会打ち合わせ等で7回開催した。

- 第1回理事会 平成30年4月27日(木) 16:00～ 下越総合健康開発センター
- 第2回理事会 平成30年6月22日(金) 16:00～ 下越総合健康開発センター
- 第3回理事会 平成30年8月4日(土) 12:30～ 下越総合健康開発センター
- 第4回理事会 平成30年10月15日(月) 16:00～ 下越総合健康開発センター
- 第5回理事会 平成30年12月1日(木) 12:30～ 下越総合健康開発センター
- 第6回理事会 平成31年2月12日(火) 16:00～ 下越総合健康開発センター
- 第7回理事会 平成31年3月2日(土) 12:00～ 下越総合健康開発センター

【佐渡支部】

〈学術〉

1) 研修会(専門-20)

日時 平成30年8月4日(土) 13時00分～(受付 12時30分～)

会場 佐渡総合病院 講堂

内容 講演「尿沈渣実技講習会 in 佐渡支部」

講師 済生会新潟第二病院 小野 篤史 技師
講師 労働衛生医学協会新潟ウェルネス 計良 政裕 技師
座長 佐渡総合病院 渡邊 裕美

2) 研修会(専門-20)

日時 平成30年11月17日(土) 13時30分～(受付 13時～)

会場 佐渡総合病院 講堂

内容 1. 学術講演(専門-20)

「心エコーのここが肝心…計測が大切なわけ」

講師 株式会社 ReTS 代表取締役 平山よしみ 先生
座長 佐渡総合病院 斎藤 桂子

「症状からみたエコー検査」

講師 佐渡総合病院 宮崎 勝吉 技師
座長 佐渡総合病院 斎藤 桂子

2. 一般演題

①左心室血栓の一症例

佐渡総合病院 宮崎 勝吉

②便から *Yersinia enterocolitica* を分離したエルシニア腸炎の1例

佐渡総合病院 佐藤 駿

③健診現場でのアレルギー検査「View アレルギー39」

新潟県労働衛生医学協会佐渡検診センター 磯西 拓人
座長 羽茂病院 山田 将也

3) 支部総会

日時 平成31年2月23日(土)14時～(受付 13時30分～)

会場 佐渡総合病院 講堂

内容 1. 学術講演(専門-20)

1) 「検査室の災害対策とBCP」

講師 オース・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
クリニカルラボラトリー事業部 学術・マーケティング部
免疫・血清担当 塩見 選矢 先生
座長 羽茂病院 山田 将也

2) 「トキ野生復帰の現状と成果」

講師 トキふれあいプラザ 獣医師 本間 穂積 先生
座長 佐渡総合病院 斎藤 桂子

2. 平成30年度佐渡支部総会(基礎-30)

〈生涯教育〉

平成30年度生涯教育履修報告

- 1) 平成30年8月4日(土)佐渡支部研修会「尿沈渣実技講習会 in 佐渡支部」
生涯教育ポイント 専門20点 会員参加 26名(非会員1名)
- 2) 平成30年11月10日(土)佐渡支部公益事業「世界糖尿病デー in 佐渡」
生涯教育ポイント 基礎20点 会員参加 4名
- 3) 平成30年11月17日(土)佐渡支部秋季研修会
生涯教育ポイント 専門20点 会員参加 28名
- 4) 平成31年2月23日(土)佐渡支部研修会
生涯教育ポイント 専門20点 会員参加 25名
- 5) 平成31年2月23日(土)佐渡支部総会「平成30年度佐渡支部総会」
生涯教育ポイント 基礎30点 会員参加 26名

〈組織活動報告〉

- (1) 平成30年8月4日(土)情報交換会 デ ビンコ 参加人数 21名
- (2) 平成30年11月17日(土)情報交換会 味彩 参加人数 21名
- (3) 平成31年2月23日(土)情報交換会 ひきの 参加人数 18名

〈支部役員会〉

平成30年5月17日

平成30年9月14日

平成31年1月18日

【新潟支部】

【平成29年度 第2回新潟支部研修会】2018/2/17

参加人数:49名

① 認知症領域の検査

寺島 健 (JA新潟厚生連 小千谷総合病院)

② 平成30年度診療報酬改定の行方とポイント

高岡登志彦 (アボットジャパン株式会社)

③日臨技の進める臨床検査技師の医療現場における職能向上に向けた講習

桑原喜久男（新潟県臨床検査技師会）

【平成30年度第1回新潟支部研修会】2018/6/23

参加人数：43名

① 血液ガスデータの読み方

加藤 彩（シーメンスヘルスケア株式会社）

小笠原 剛（シーメンスヘルスケア株式会社）

② シリーズ精度管理1『定量系検査の内部精度管理』

金井 弘（シスメックス株式会社）

【平成30年度第2回新潟支部研修会】2018/10/6

参加人数：24名

① ゲノム医療の実装に向けたプロトコル提案

大藤 努（ライフテクノロジーズジャパン株式会社）

② シリーズ精度管理2『形態学検査の精度管理と標準化』

林 文明（シスメックス株式会社）

【平成30年度第3回新潟支部研修会】2019/2/16

参加人数：85名

① 肺機能について

上野 耕平（株式会社フクタ電子産業肺機能事業部営業課）

② シリーズ精度管理3『心エコー図検査と正しい検査の進め方』

種村 正（心臓血管研究所付属病院臨床検査室）

（臨床化学研究班）

【第9回新潟支部臨床化学班研修会】2018/7/6

参加人数：26名

① 採血業務における基礎的な注意点（採血管の取り扱いと検査値への影響を中心に）

須長 宏行（積水メディカル株式会社）

② マイクロピペットセミナー～ピペットの正しい使い方・メンテナンス方法について～

杉村れもん（エッペンドルフ株式会社）

【第10回新潟支部臨床化学班研修会】2018/12/15

参加人数：24名

① 教科書通りにいかない甲状腺ホルモンの検査～甲状腺診断ガイドラインをふまえて～

川崎 芳正（シーメンスヘルスケア株式会社）

② R-CPC 一検査値から甲状腺疾患を学ぶ～

北澤 勝（新潟県立燕労災病院 内分泌代謝内科）

（血液研究班）

なし

（生理研究班）

なし

(一般検査研究班)

【第42回新潟支部一般検査研修会】2018/7/11

参加人数：30名

- ① スライドクイズ
- ② 全国学会報告、行列ができる Part Ⅷを含めて
- ③ 尿試験紙検査 注意したい偽陽性と偽陰性

白川千恵子 (新潟医療技術専門学校)

丸山由香里 (新潟市民病院)

鈴木 正隆 (栄研化学株式会社)

【第43回新潟支部一般検査研修会】2019/2/9

参加人数：44名

- ① 円柱成分の分類、尿沈渣の目合わせについて
- ② 穿刺液、腹膜透析について

横山 貴 (東京女子医科大学病院)

横山 貴 (東京女子医科大学病院)

(病理技術研究班)

なし

(微生物検査研究班)

【第129回新潟支部微生物研究会】2018/8/18

参加人数：21名

- ① 血液培養のベストプラクティス
- ② 血液ファーストの会、血液培養を第一に

小林 郁夫 (日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)

草間 文子 (新潟大学医歯学総合病院)

〈公益活動、その他〉

【平成30年新潟支部定期総会】2018/2/17

参加人数：30名

一般社団法人新潟県臨床検査技師会
2019年度事業計画

会長

渡邊 博昭

2019年度は役員改選期であるが、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、とどこおりなく会務を遂行する。
新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 引き続き一般社団法人移行に伴っての問題点を検証する。
- ② 引き続き新しい規定および手順書の検証をする。
- ③ 文書発送作業および発送費用の増加が顕著なため、メール配信およびホームページによる情報提供に切り替えが可能かどうかを検証する。

学術部

- ① 第93回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② ニューリーダーの育成や職能向上・職能開発、認知症検査に関わる講習会を開催する。
- ③ 検査研究部門活動の助成金申請を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

1. 会務の執行体制

2019年度は役員改選期にあたるため、円滑な業務運営を進めるうえで、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。

また、活動の要である事務局機能は、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

2. 諸会議

1) 理事会・常任理事会

連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として理事会・常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営していきたい。

災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものであり、会員登録者を増やしていきたい。

3. 組織対策

1) 臨床検査セミナー

通常総会と同時開催する臨床検査セミナーは、技師会事業として定着している。最新の医療トピックスや臨床検査技師の卒後教育等の内容で企画し、自己研鑽の場として今後も積極的に開催していきたい。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの新潟県臨床検査学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、第91回から新潟市で開催している。これにより、更なる学術部と支部との連携を強化するとともに、より多くの会員参加を募り、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保していきたい。

また、臨床検査技師のさらなる地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

4. 公益活動（地域保健医療活動）

一般社団法人として、県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指すべく、臨床検査技師の社会貢献に取り組み、日臨技の事業や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画していく。

5. 求人情報の提供

会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

6. 表彰関係

1) 篠川至賞

2019年度で第37回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求め、分野に関わらず最多得点者の上位3名を表彰する。

4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

学術部	副会長 桑原 喜久男
-----	------------

2019年度活動計画

第93回新潟県臨床検査学会を11月16日（土）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催する。多くの会員から一般演題発表をお願いしたい。検査研究部門は新潟県臨床検査学会において教育セミナー等の企画、運営を担当いただく。精度管理は日臨技のシステムを用いて新臨技 HP にて結果の閲覧等、事務手続き等の簡素化を進めたい。検査研究部門研修会や支部研修会を通じて日臨技の生涯教育推進事業20研修会の申請を目指す。また、日臨技が推進する各種講習会の開催準備を進める。

1. 学会

桑原 喜久男

第93回新潟県臨床検査学会を11月16日（土）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターを会場に開催する。一般演題を多くの会員からご発表頂けるようお願いしたい。第93回では教育講演を2グループ程度に分け、2部門の講演に参加できるように取り組みたい。また、特別企画には臨床検査技師を取り巻く状況をご理解いただける内容に取り組んでいきたい。賛助会員からの機器展示やランチョンセミナーも募集し、多くの会員からご参加いただける学会へとしたい。

2. 検査研究部門

中村 岳史

検査研究部門が企画運営する研修会は、技師会における重要な活動の一つである。医療制度や検査技術など、日々変化していく医療現場においては新たな知識や技術を習得し日々の業務内で実践していくことが極めて重要であるため、検査研究部門が企画運営する各種研修会が担う役割は大きい。

検査研究部門は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門の9部門3分野で構成され、各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とする。研修会参加費は、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし、特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、若手技師向けの基礎的内容から専門性を高める内容、最新の情勢を踏まえた内容や認定資格取得教育など、様々な状況下にある会員に有益で魅力的な研修会をバランスよく開催できるよう体制を整備し、企画運営にあたる。また、講演に加えて、実習形式による研修会を推進し、知識面・技術面の両側面でのレベルアップを目指した研修会の企画を奨励する。技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会を企画するなど各研究部門が協力することで、幅広い知識や技術を習得できるよう、会員にとって魅力ある活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

坂西 清

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、地域医療への貢献と会員の技術向上という点から重要な事業であるという位置づけで積極的に協力していく。

2019年度も臨床化学、微生物、血球計算、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。昨年度より医療法が改正され、作業手順書、作業日誌などの整備が必要とされる中、精度管理から精度保証という観点を考慮した精度管理事業を展開していきたい。また日臨技の臨床検査室精度保証認証制度・共用基準範囲についても多くの施設の理解が得られるよう啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援している。今期は役員改正の年であるため、日臨技情報総合システム（JAMTIS）の操作方法および「生涯教育推進研修会助成金」の申請手順の引き継ぎを行い、不明な点は担当理事がサポートをすることにより、確実な運用と助成金受領の支援を行っていく。

広報部

副会長 坂西 清

2019年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、ホームページの情報発信においては会員に有益な情報をいち早く提供していきたい。会誌においては様々な企画を取り入れながらも学術重視の会誌を目指していきたい。県理事、各支部理事、会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させていきたい。

1) 新臨技会誌

神林 真弓

会誌発行は311号から314号までの年4回季刊発行を予定する。

〔講義・研究〕引き続き多分野に渡り基礎的内容から最新のトピックスに焦点を当てて掲載していきたい。

〔研修会参加報告〕今年度も参加会員の協力のもと、情報提供や会員の研鑽の頁としたい。

〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の奮闘記～〕

会員同士の親睦をはかり、多くの方が参加できるツールとしたい。

〔公益活動報告〕多くの会員に公益活動の重要性を知っていただき、ボランティア活動にも参加していただけるような内容にしたい。

〔認定検査技師制度〕認定取得者からの経験談やアドバイスを掲載することで、新たに認定を取得しようとしている多くの会員のスキルアップを支援していきたい。

〔施設紹介〕臨床検査技師の活躍の場としてあらゆる地域と施設の紹介していきたい。

〔学会参加報告〕これから学会発表を考えている人たちの参考となるよう、学会発表することの意義や思いなどを掲載していきたい。

2) 新臨技ニュース

佐藤 卓

理事会議事録、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また、今後も広く会員に読まれるような読みやすいレイアウトを心がけるように、工夫していきたい。発行目安は月1回とし、理事会終了後、速やかに発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

ホームページは研修会案内・各支部活動・お知らせ・求人情報などをリアルタイムに掲載し、ネット環境があれば、いつでも閲覧可能となっている。昨今のスマートフォンの普及により、サイトへのアクセスも増加し、ページ内容への期待も増えていると考える。今後も有益な情報提供ができるよう新規コンテンツ（スマホ用サイト）などを検討して活発な運用を目指していく。また、当技師会は、大規模災害に備え災害時緊急連絡システム（メーリングリスト）を構築しているが、登録者が伸び悩んでおり会員の10%も満たない現状である。引き続き一人でも多くの会員の登録をお願いする。（詳細は新臨技ホームページ参照）

2019年度収支予算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	8,870,000	8,705,000	165,000	
正会員受取会費	7,590,000	7,425,000	165,000	1,380名×5,500
賛助会員受取会費	1,280,000	1,280,000	0	64社
事業収益	2,800,000	2,400,000	400,000	
参加費収益	1,800,000	1,800,000	0	学会参加費300名×2,000、 検査研究部門参加費
会誌広告収益	1,000,000	600,000	400,000	会誌広告、名簿広告
受取補助金等	1,200,000	1,200,000	0	
受取民間助成金	1,200,000	1,200,000	0	日臨技、県医師会
雑収益	205,000	205,000	0	
受取利息	5,000	5,000	0	
協賛金収益	100,000	100,000	0	学会展示
雑収益	100,000	100,000	0	祝儀等
経常収益計	13,075,000	12,510,000	565,000	
(2) 経常費用				
事業費	11,770,000	10,170,000	1,600,000	
学会費	1,000,000	1,000,000	0	第93回新潟県学会
運営費	1,000,000	1,000,000	0	臨床検査セミナー
学術部活動費	2,500,000	2,500,000	0	研究部門活動費
学術雑費	120,000	120,000	0	源泉徴収税等
臨床検査精度保証費	450,000	450,000	0	新潟県精度管理事業
会誌発行費	4,100,000	2,600,000	1,500,000	会誌4号、会員名簿
広報編集費	700,000	700,000	0	広報委員会、HP維持管理費
組織公報費	900,000	900,000	0	各支部公益事業負担
災害対策費	200,000	200,000	0	
生涯教育表彰事業費	200,000	100,000	100,000	賞状作成費等
組織強化費	600,000	600,000	0	各支部助成金
管理費	6,530,000	6,130,000	400,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	文房具、封筒
印刷費	600,000	600,000	0	各種案内
通信費	800,000	700,000	100,000	案内発送
交通費	350,000	350,000	0	日臨技、北日本会議
渉外対策費	300,000	300,000	0	関連団体、支部対策
給料手当	650,000	650,000	0	事務職員
会議旅費	1,300,000	1,000,000	300,000	理事会旅費

事務所維持管理費	1,750,000	1,750,000	0	賃貸料、電気代
電話費	120,000	120,000	0	
事務所雑費	30,000	30,000	0	
交際費	150,000	150,000	0	関連団体慶弔費
総会費	150,000	150,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	
経常費用計	18,300,000	16,300,000	2,000,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,225,000	△ 3,790,000	△ 1,435,000	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 5,225,000	△ 3,790,000	△ 1,435,000	
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額				
他会計振替額				
当期一般正味財産増減額	△ 5,225,000	△ 3,790,000	△ 1,435,000	
一般正味財産期首残高	28,197,818	28,111,480	86,338	
一般正味財産期末残高	22,972,818	24,321,480	△ 1,348,662	
II 指定正味財産増減の部				
III 正味財産期末残高	22,972,818	24,321,480	△ 1,348,662	